

安全確認チェックリスト【競技名】

競技会名	
期日	令和 年 月 日 ()
会場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
	●クロスカントリー競技 積雪状況・圧雪状況は良好か。 コース上に危険箇所はないか。 誘導標識は設置されているか。 関門員は適切な箇所に配置されているか。 ●アルペン競技 積雪状況・圧雪状況は良好か。 一般エリアと競技エリア（トレーニングエリア）がセパレートされているか。 セーフティネット・保護マットは危険箇所に設置されているか。 ポールの破損はないか。 ポールは競技規則に合ったものを使用しているか。 ポールおよびフラッグのセッティングは適切か。 ビンディングの調整は適切か。 種目にあったヘルメットおよびプロテクターなどの安全装備に問題はないか。	
施設 設備 用具	●共通事項 使用施設の整備は十分に行われているか。 規定に合ったコース設定がなされているか。 技能・技術・種目に合ったマテリアルを使用しているか。 マテリアルの点検整備はされているか。 天候・気温に合ったウエアを着用しているか。 医療品などの準備はできているか。 緊急時の選手搬送用にスノーモービルは配備されているか。 リフト支柱・人工降雪設備・標識・ロープ・マットなどとの衝突による危険はないか。 重大な事故防止に向けた安全対策に対応できる体制は確立されているか。 上記に属さない緊急事態に対応できる体制が確立されているか。	

活動 内容	●クロスカントリー競技	
	選手の体力・技術に合った距離・コース設定をしているか。	
	天候・コンディションを考慮した距離設定か。	
	●アルペン競技	
	スキーヤーのスピードの出し過ぎによる危険への注意喚起をしているか。	
	能力に合ったトレーニング内容であるか。	
	●共通事項	
	自己転倒による危険への注意喚起をしているか。	
	他のスキーヤーとの衝突による危険への注意喚起をしているか。	
	疲労・体調不良による危険への注意喚起をしているか。	
	水分補給・休息は適切にとっているか。	
	体調不良・怪我・精神的に不安定な選手はいないか。	
	ウォーミングアップやクーリングダウンは十分か。	
	無線機の準備など選手や競技役員間の連絡体制は整っているか。	
	体調の悪い選手、怪我をしている選手はいないか。	
	RICE処理など、応急処置について理解・実践できるか。	
	緊急地震速報への対応および管理者との連携・誘導体制が確認されているか。	
	全日本スキー連盟境地規則（最新版）に沿った大会運営であるか。	
	上部団体（千葉県スキー連盟）と連携しているか。	
	上部団体（千葉県スキー連盟）が作成した「災害など発生対応マニュアル」を作り開始、運用についての体制が確立しているか。	
	重大な事故防止に向けた安全対策に対応できる体制は確立されているか。	
	スキー場パトロール（管理・医務関係）との連携および緊急事態発生時の対応について事前に共通理解が図られているか。	
	スキー場索道（リフト運行管理）との連携および緊急事態発生時の対応について事前に共通理解が図られているか。	
	スキー場スキースクール（大会など運営協力）との連携および緊急事態発生時の対応について事前に共通理解が図られているか。	

●共通事項	
	悪天候時におけるトレーニング・競技会開催について実施可能か。
	雪崩発生の危険情報など確認は十分か。
	降雪・吹雪・降雨・濃霧など天候に伴う危険への対応について理解されているか。
	崖・急斜面・溝・沢など地形に伴う危険への対応について理解されているか。
環境	アイスバーン・深雪・クレパス・雪崩など雪質や雪面の状態による危険への対応について理解されているか。
条件等	立木・切り株・茂み・岩石・露出した地表・水路などの自然の障害物による危険への対応について理解されているか。
	コースの閉鎖・気象警報の発令など、スキー場内掲示板および場内放送を確認したか。
	その他、スノースポーツ安全基準のスノースポーツに内在する危険に対応しているか。
	上記に属さない緊急事態（自然環境）に対応できる体制が確立されているか。
♪アラート発令時対応	主催者や指導者が♪アラート発令時の対応を確認し、参加者などに周知しているか。
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒などに指導しているか。
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿などを準備しているか。

反省・報告（事故、ヒヤリハットなどを含む）

大会終了後に事務局に提出